

1月 30 日日本子ども宣教局伝道学校（子ども）

2月学院福音化

## 1課「神様のやぐらと3つの時刻表」

使徒の働き 1:1、3、8

1. テオフィロ様。私は前の書で、イエスが行い始め、また教え始められたすべてのことについて書き記しました。
3. イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のこと語られた。
8. しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

2月最初の週、第1課学院福音化のタイトルは神様のやぐらと3つの時刻表ですが、今日は、永遠という概念の中で過去、現在、未来について、みことばを默想しましょう。

もちろん、結論はキリスト、神の国、聖霊の満たしになります。  
今日のメッセージは、とても短くて太いです。短いですが、難しいので、集中してよく読んで、默想してください。

聖書箇所は、使徒の働き1章1節、3節、8節です。（最初に書いているので読んでください）

まず聖書は私たちの救いの出発は、いつだと話しているでしょうか。エペソ人への手紙1章4節のみことばを見ましょう。

エペソ1章4節

すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方にあって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。

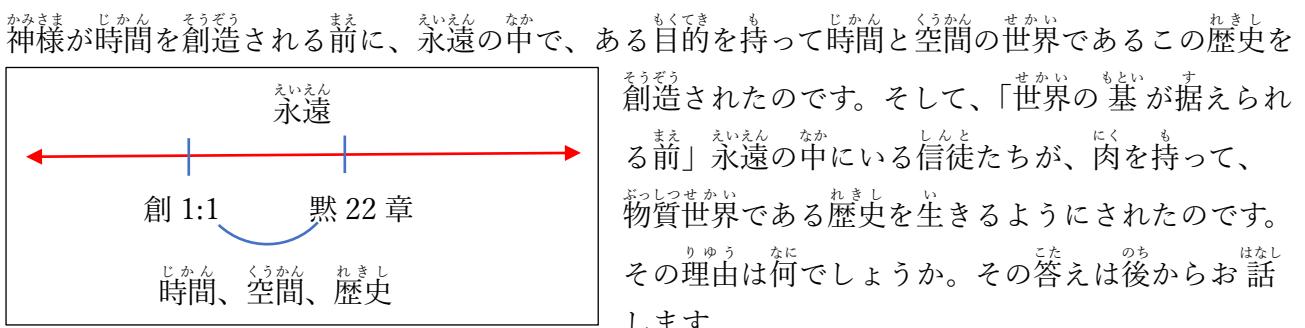
明らかに「世界の基が据えられる前」だと言われています。その「世界の基が据えられる前」を言い換えると「永遠」です。



私たちの頭では理解できないのですが、永遠といふことは、始まりもなく終わりもない、永遠に続くことでしょう。ところで、その永遠のある時点に、時間と空間というものが創造されました。

それが創世記1章1節、「はじめに神が天と地を創造された。」で起こったことです。そのように創造された時間と空間の、その歴史の中でだけ過去、現在、未来というものがあるのです。聖書が記録された創世記1章1節から黙示録22章21節の最後まで、これが神様が造られた「創造の世界の歴史」です。

歴史の中には過去、現在、未来がありますが、永遠というものの中には過去や未来はありません。 しいていえば、永遠の現在だけがあるのです。そのようにして、「世界の基が据えられる前に」選ばれた私たちの救いは、永遠の現在だと言うことができるでしょう。



神様が時間を創造される前に、永遠の中で、ある目的を持って時間と空間の世界であるこの歴史を創造されたのです。そして、「世界の基が据えられる前」永遠の中にいる信徒たちが、肉を持って、物質世界である歴史を生きるようにされたのです。 その理由は何でしょうか。その答えは後からお話しします。

聖書は、この物質世界である天地がどうなると話しているでしょうか。ペテロの手紙第二3章7節と10節と黙示録21章1節を見てみましょう。

II ペテ 3:7、10

07 しかし、今ある天と地は、同じみことばによって、火で焼かれるために取っておかれ、不敬虔な者たちのさばきと滅びの日まで保たれているのです。

10. しかし、主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は大きな響きを立てて消え去り、天の万象は焼けて崩れ去り、地と地にある働きはなくなってしまいます。

黙 21:1

また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

明らかに今、私たちの目に見えるこの世界、天地はなくなると言われています。

そのように、この肉体を持っていいる人間は、この肉を脱いでしまうとき（それを肉的な死と言うのですが）永遠の中に入ります。言い換えれば、今、見た聖句のように、時間と空間の歴史は、いつか消滅して消えてしまい、永遠だけが残るのです。個人の終末か時代の終末かは、ことばの差であるだけで同じことです。とにかく、この時間と空間がある歴史は、永遠の中の「ある一つの地点」にしばらく存在して消えるものだということです。

永遠の概念は分かるでしょう。その永遠の中での過去、現在、未来があるこの歴史についての概念について説明しました。

今月の1課の内容が、過去問題解決、現在、未来についての内容なので、説明しました。

では、先ほどした質問に戻ってみます。

### ＜私たちに歴史を通過させられる理由＞

それなら、「神様はあえてなぜ、私たち神の民、信徒に、この歴史という所を通過するようにされたのか」ということです。この歴史を通過しなくとも、天国に入るには何の支障もなく、世界の基の据えられる前に選ばれた契約の民であるのにもかかわらず、なぜあえてこの時間と空間と物質があり、また、過去と現在と未来があるこの歴史を通過して生きるようにされたのでしょうか。答えるは簡単です。

### 1. 私たちがどのように救われるか（キリストの十字架）説明するため

私たちがどのように救われるようになったのかを説明するためです。ここについて話すことはとても多いのですが、短く説明します。

「自分の背きと罪の中に死んでいた」私たちが、どのように神様とともにいる者になったのか、どのように永遠の神の国を生きる者になったかを分かるようにするために、学びの場所として与えられたのです。その中心にはイエス・キリストがおられます。イエス・キリストの十字架の事件を通して、その前とその後が完全に変わったようになったのです。十字架は、永遠の現在です。

ヨハネの福音書14章1節で3節を見ましょう。

- あなたがたは心を騒がせてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。
- わたしの父の家には住む所がたくさんあります。そうでなかつたら、あなたがたのために場所を用意しに行く、と言ったでしょうか。
- わたしが行って、あなたがたに場所を用意したら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしがいるところに、あなたがたもいるようにするためです。

イエス・キリストが十字架を通して、私たちに永遠の、完全な神の国を完成されたのです。

## 2. イエス・キリストの十字架を通して現わされた神様の栄光、力を私たちが正しく見つめて、神様の栄光と力を恵みをほめたたえる者になるようにするため

そして、私たちが歴史を通過するようにされた二つ目の理由は、イエス・キリストを通して、この歴史にあらわされる神様の栄光と力を正しく見つめるようになります。

イエス・キリストの中に、その十字架の事件の中には、神様の愛と恵みとあわれみ、すべてが入っています。そのイエス・キリストの十字架が神様の栄光であり、その十字架が神様の力だとも言われています。そのように、イエス・キリストの十字架を通して現わされた神様の栄光、力、それを私たちが正しく見つめて、その神様の栄光と力を恵みをほめたたえる者になるようにするためです。

何か一生懸命に働きをしなさいと願って、この歴史を生きるようにされたのではないということです。エペソ人への手紙1章3節から6節を読んでみましょう。

エペ 1:3-6

3. 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天上にあるすべての靈的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。

4. すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方にあって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。

5. 神は、みこころの良しとするところにしたがって、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。

6. それは、神がその愛する方にあって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるためです。

6節に確かに書いてあるでしょう。「恵みの栄光が、ほめたたえられるためです」それが私たちが造られた目的であり、この歴史を通過している理由なのです。私たちがなにか立派な人になって、また、神様が喜ばれるくらいの立派なことをたくさんして、神様からほめてもらったり、賛美を私たちが受けるのではなく、神様が、私のような罪人、いや罪人のかしらのような私にしてくださったことを、私たちちはほめたたえるのです。常に、この部分をのがしてはいけません。少しであっても人がほめられることは、神様が喜ばれないのです。皆さん、何かうまくできても、でき

なくても、そのために喜んだり、悲しんだりする必要がないのです。永遠の現在であるキリストの十字架を見上げて立っていれば良いのです。

結論です。

過去は、私がどんな罪人であり、どんな状態にあったかを振り返ってみることです。

未来というのは、それにもかかわらず、私が救われた神の子どもになって入る完成された天国、神の国を見上げて、待ち望みながら生きることになったかを見通すことです。

そして、現在はそのような過去と未来を救いという永遠の現在につながるようにされたイエス・キリストの十字架を信仰によって見上げることです。つまり、過去と未来が続くように、死んでいた私が生きたものとなり神の国に行くように、過去と未来をつないでくださったイエス・キリストの救いの現在、過去と未来を続くようにされたイエス・キリストの十字架を信仰によって見上げることが現在です。

また、神の国のことということは、特別に伝道と宣教をたくさんしなさいということではありません。イエス様が、ご自分をむなしくして、しもべの姿をもって、死にまで父なる神様に従順に服従され、そのようにして完成されたのが神の国です。それが神の国のことです。簡単に話せば、私たちも自分を捨てて、自分の十字架を負うことです。そのようにして、イエス・キリストの生き方が、私たちの生き方として同じく現れるように、祈らなければなりません。

ヘブル人への手紙12章2節を見ましょう。

ヘブ12:2

信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせずに十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

この生活が私たちから現れるためにも、瞬間瞬間、絶えず聖霊に満たされたように祈らなければならないのです。

続けて默想する中で、神様の恵みが与えられますように祈ります。